

1 緑の景観を生かしたまちづくり

農地、森林は、古都・京都の景観や地域の生活環境を構成する重要な役割を担っています。



すぐき菜の作付と比叡山

2 農林業の有する防災機能を生かしたまちづくり

市域の77%を占める森林や農地は、洪水防止、水資源管理、土壤浸食・土砂崩壊防止等の公益的機能を持っており、農林業生産活動を維持していくことが今後ますます重要になっていきます。また、都市における農地も雨水の一時貯留や延焼の防止など都市防災上重要な役割を担っています。



3 農林業によるひとづくり

農林業体験は、自然に親しみながら命を育てる大切さを教え、豊かな人間性を育むとともに、医療、福祉面でもその価値が見直されています。

間伐体験学習
間伐体験を通じて、森林づくりの大切さを学びます。

森林ハイキング

未来の農業サポーター育成事業
伝統野菜「みず菜」の移植作業。児童の小さな手が未来の農業を支えます。

4 文化の継承と創造

農村地域には、様々な文化や伝統行事が今も数多く残されています。



左京区久多地域の「どんど焼き」



愛宕信仰を表す「松上げ」は、若狭街道沿いの集落で伝承されている行事です。



実りの秋、京北山国地区では、時代祭りの先頭で有名な勤皇山囃子の行進が行われます。

京の伝統野菜

明治以前から栽培されていた伝統野菜(28品)の内、栽培の少なくなったこれらの18品目について、種子及び栽培技術の保存を図っています。



新京野菜

西京区大原野地区に「開発野菜種子配布センター」を設置し、生産者や京都大学の協力を得て開発した野菜の有望品種の種苗を生産し、市内の農家に有償配布することにより、京都の気候風土にあった新しい野菜の開発・導入を進めています。

